

# 関常幸 議会報告

第 52 号  
2020. 4

発行責任者  
南魚沼市議会議員 関 常幸  
南魚沼市浦佐 2015 番地  
TEL 025-777-2245



## コロナウイルス、ごみ施設、病院

●「新型コロナウイルス」は、東京オリンピックを延期させた。全世界・アメリカが中国が欧州が、国力をかけて対応しているが、終息は全く見えていない。

国は1都3県の首都圏を対象として「緊急事態宣言」を出し、東京封鎖が現実味をおびてきた。南魚沼市内に、いっどこで発生してもおかしくない状況だ。

新型コロナウイルスは、「自然災害」だ。市は自然災害（地震等）と同等以上の財政出動を考えなくては……。

●「新ごみ施設」建設場所・大学用地内は、今後の協議の中で選択肢の一つとして浮上するとの期待もあったが、3月議会で林市長は、新ごみ施設・現場所に建設しないと明言する。

その日から、雇用の確保や地域活性化のために、新ごみ施設の建設をと誘致の声が聞こえて来た……。

新ごみ施設は、二市一町で建設をすすめている。距離から言うと大和地域内が最善。安全性や風評被害、交通量の問題でどこの場所に建設しても反対の声はあがる。新ごみ施設は、その地域にマイナスではなく生活にプラスになると確信している。新ごみ施設の建設場所、みんなで考えよう。

現在のごみ焼却施設は老朽化しており、一日でも早い決定が大切。

●医師不足で市民病院の診療科縮小や診療人数が制限にならないよう、市長が先頭になり、病院とともに対応をしている。

そういう現状もあり、老朽化している「ゆきぐに大和病院」の存続のことが、話に出ていると聞き仰天した。

市民病院と大和病院の役割。そして、市民病院群と基幹病院の役割も明確になっている。しかし、人口減少が続く中、病院の再々構築は必要。

ゆきぐに大和病院は、高齢者・在宅・終末期医療を中心に行っており、大和地域になくてはならない病院だ。

市政は、市民一人一人の安全安心を第一に取り組んでる。この秋には、林市長2期目に向けて挑戦。

## 3月定例議会 (2日～19日)



3月議会は、予算議会ともいわれ18日間と長い。議会二日目の3日は、市内全中学校で卒業式が行われ、議会も午後からの開催であった。ところがコロナウイルスのために卒業生と保護者の出席のみで行われた。また、3日から市内全小中学校で2週間程度休みとなる。

異常少雪で臨時議会を開催し、今度はコロナウイルスという誰もが経験したことのない中で議会がスタート。

本議会を「新型コロナウイルス」議会と称し記録に残しておく必要がある！

## 令和2年度 一般会計予算 302億3千万円に

### 市長 所信表明



- ・持続可能な財政運営を念頭に、2年度一般会計予算302億3千万円、前年比99.4%、1億93百万の減額。
- ・市民病院長に加計先生を迎え、田部井院長は透析センター長に。
- ・医師確保のため識者による「南魚沼市医療まちづくり」検討委員会を設置し3月1日に第1回目がスタート。
- ・上田小学校4月9日に開校式・入学式。
- ・大崎小学校のトイレ増設工事を新年度に繰り越して実施。
- ・健康づくりの関心を高め、楽しみながら健康ができる環境づくりの一つとして新たに「健康ポイント事業」に取り組む。
- ・医師不足対策として「地域医療推進のための寄付講座」の開設。
- ・産後4か月までの困窮した母子を対象に産後ケア事業に新たにに取り組む。
- ・中学生の海外派遣事業訪問先を、ワシントンDC、ニューヨークへ変更し、生徒から政治や経済の中心を体験してもらう。
- ・新ごみ処理施設先進地視察や施設の規模や付帯施設等の検討。
- ・水道事業は将来の地域別水源方式に向け、畦地の浄水処理2系列運転から1系列。
- ・ふるさと納税につきましては、受付窓口を広め特色ある返礼品を加える。

### ★一般質問 (9～11日)

10日午後、議会開会直後に教育長が発言を求め、「市内の小中学校の休校は、17日以降も継続し春休みにはいる。終業式、離任式はしない。新年度は予定通り」と報告がある。このような状況の中で、17人の議員が登壇し市長と対峙する。

ふるさと納税、教育、新ごみ、少子化、医療、観光、農業、施政方針、災害、危機管理、働き方改革……と質問は幅広い。多くの議員は異常少雪に続いての新型コロナウイルスに触れ、市民の窮状を訴え対策を促す。

9日は6人、10日は6人、11日は5人。質問は、私が市長であればこういう施策を行うと、市民目線ですどく市長に迫る。



一般質問・中学2年生の修学旅行取りやめによるキャンセル料は、保護者負担でなく市が負担すると、さっそく議会中に市長より報告がある。

## ★政務活動(2月4日～6日)

### ●豊後高田市～人口2万2千人。「教育のまちづくり」を視察。

平成14年度に学校週5日制が始まり、学力の低下・子供の居場所の不安、家庭間格差の心配から、毎週土曜日公営の塾(学びの21世紀塾:無償)がスタートする。

現在は市民講座、高校生のための塾も開講。夏休み・冬休み特別講座や水曜日講座、放課後寺子屋講座も設置される。小学生1002名、中学生519名はどこかの塾で学んでいる。講師は教員OB、市民が半々。人数は303人。

学力は画期的に向上し、若い子育ての移住・定住が図られる。南魚沼市も豊後高田に学ぶべき。



挨拶する塩川クラブ長

### ●竹田市～人口2万1千人「温泉を活用した健康づくりの挑戦」視察

2時間の調査が現地を見たり3時間に及ぶ。そこで学んだ事は人まねでなく、昔からあるものを活かすことだ。

### ●千葉県「幕張メッセ」にて「講演会」を聴講 講師:兵庫県豊岡市長

演題「小さな世界都市を目指して」

人口8万人、外国人観光客10万人が目標。宿泊客2011年1118人が2017年50,800人に。6年で45倍。

豊岡市を視察・調査をすることに!

## 主な活動日誌 (1月から3月)



1.10 大和商工会  
賀詞交歓会



1.13 浦佐地区賽の神まつり



1.26 関 常幸後援会市政報告会



2.2 第52回自民党大和支部  
定期大会



2.8 浦佐多門青年団臨時総会  
(青年団事務所開き)



2.14 白山神社春まつり  
(こどもサンヨ)



3.4 大祭「福もち」作り  
(同級生「れいわ参」)



3.8 前最高幹部水行  
(大祭翌日定例総会、  
団長法被・団旗の引継ぎ後)



3.24 NPO湯沢砂防役員会

## ★ 地方自治監査研修会(1月16日～17日)

会場は東京の「全国町村議員会館」。講師の池田昭義先生は、東京都の監査事務局や保谷市の代表監査委員を歴任し、総務省や新日本監査法人、日本税理士会、等々の役職も歴任、地方自治監査では右に出る人がいないのではと思った。監査基準・事務運営要綱、企業会計の決算審査、監査技術等々多くのことを学ぶ。

昨年11月6日に監査委員に選任される。監査は、毎日の業務が住民福祉の増進になっているか、最小の経費で最大の効果を挙げているか。また、財務及び事務の執行が法令、条例、規定及び予算に基づいて適正に効率的に行われているかに留意し実施する。

現在の事務局職員は3名、監査委員は2名。監査の質を高めるには、監査体制（事務局員の増）の強化が重要だ。

## ★ 北里保健衛生専門学院訪問(1月20日)

学院は昭和57年に開学し38年目を迎える。臨床検査技師養成科、管理栄養科、保険看護科、臨床工学専攻科の4科、卒業生は5700人、在学学生900人の学院。国家試験合格100%近くの実績は、県内外から多くの学生が学び巣立った。

近年少子化、看護師や医療技師の不足等で、学院をめぐる環境が大きく変わり今回の訪問となる。

学院が地域に果たしている役割は大きく、学院がこの地で存続し続けられるよう、市や地元と一緒に考えていくことが大切だ。



学院会議室にて

# 裸押合大祭中止(3月7日)

2月27日15時、青年団長・住職・大祭委員長、大祭の中止を決定する。長い歴史の中で初めてだ。一年間、今日のために準備をしてきた多門青年団最高幹部の事を思うと胸が痛み涙した。

中止いたしました。大祭の真意である「毘沙門天」への祈り。ご奉納くださいました「お志」はありがたく頂戴し、毘沙門天に備え、お護摩を炊い

て皆様にご利益・ご加護・安泰がいきわたるように。そして、コロナウイルスの終息を願い祈願させていただきました。



お護摩の火から一斉に点火された大ローソク



最高幹部12名は、水行・豊年踊り、毘沙門天参拝に行く。



誰もいない毘沙門堂で毘沙門天を守る「青年団OB」



団旗が見守る中、クライマックスの「ささらすり」。唄に合わせて踊るは最高幹部12名のみ。

## 編集後記

- 押合大祭が終わると、我が家は12日に十二講まつり、15日には稲荷様を祀ると、お彼岸で親戚の仏さま参り。
- 孫が四月から小学一年生、四年生、六年生に、四月八日の入学式、楽しみにしていたがコロナのため出席できず。三密を避け、手洗いの励行を。